血溜まり

使用器具 ／ 評価ポイント —

大裂傷（29ページ参照）や患部を切開した傷口などからあふれ出た血を吸引し、その下にある患部を見えるようにする術式。吸引する血液の量は患部ごとに違うため、画面に「OK」と表示されるまで吸引を続ける必要がある。血溜まりは一定時間放置しておくと増殖し、範囲が広がっていく。

血溜まりが発生しているあいだは、その下にある患部の処置はできない。すみやかに吸引しよう。

［手順］
❶ ドレーン　血を吸い取る

出　血

使用器具 ／ 評価ポイント △

少しずつ吹き出す血を止める術式。患部にヒールゼリーを「OK」と表示されるまで塗れば処置完了。治療法は簡単だが、位置を特定しにくいのが難点。さらに、一定時間放置すると、血溜まり、血溜まりが発生した裂傷、大裂傷（29ページ参照）のいずれかに悪化するため、処置法が変わる。

出血は見つけ次第素早く処置。初期段階では少量の血だが、時間が経つにつれて増えていく。

［手順］
❶ ヒールゼリー　患部に塗る

切　開

使用器具   ／ 評価ポイント

一部のエピソードを除き、ほぼすべての手術で最初に行なう基本術式で、部位によって開胸または開腹とも呼ぶ。切開を行なう部分にガイドラインが表示され、まずはそれに沿ってヒールゼリーによる消毒（黄色から青色に変える）を施す必要がある。正しくメスを扱ったとしても、ガイドラインに塗り忘れがあると「Good」、まったく塗らなかった場合は「Bad」評価になるので注意したい。メスで患部を切り開く際は、ガイドライン上のすべての点をポインタがとおれば成功。ガイドラインから大きく外れたり、途中で作業を終了すると「Miss」となり、メスを入れる手順がやり直しになる。ちなみに、ガイドラインをなぞるときは、端のどちら側からメスを入れても問題ない。ほとんどの患者はバイタルが上限値よりも低下した状態で手術室に運ばれる。余程の自信がないかぎり、切開部の消毒を終えたら、バイタルを最大値まで回復させてから切開したほうがいいだろう。

消毒を省いて切開することも可能だが、その場合は少しでもラインから外れると「Miss」になる。

切開中はバイタルが低下。ゆっくりガイドラインをなぞれば確実だが、患者に負担をかけてしまう。

［手順］
❶ ヒールゼリー　ガイドラインの上に塗る
❷ メス　ガイドラインに沿ってメスを入れる

評価ポイントに関わる要素

- ガイドラインを完全に消毒する
- 切開時にミスをしない

閉　創

使用器具 ／ 評価ポイント ○

臓器内の治療を終えたあと、術野を閉じる際に行なう処置。初めに針と糸によって切開部の縫合を行なうのだが、縫合後に最初の評価表示がある。評価ポイントは裂傷の縫合と同じだが、閉創では縫合が不完全だったり、途中で縫合を中断すると「Miss」となってやり直しになるうえ、その後の評価に影響する。縫合が終われば縫合痕の止血をして保護テープを張れば処置完了だ。止血の評価は保護テープを張ったあとの評価に影響するので、止血は「OK」と表示されるまで行なおう。ちなみに、塗り忘れがあると「Good」、まったく塗らなかった場合は「Bad」になる。保護テープを張るときは、「貼り付けた保護テープの長さ」、「貼った角度が縫合痕と一致しているか」の2点に注意すること。縫合痕を止血し、保護テープの評価がパーフェクトなら「Cool」、許容範囲ならば「Good」、少しでもずれていると「Bad」評価となる。また、テーピングの始点や終点が縫合痕の途中であった場合や、縫合痕から大きく外れていると「Miss」となり、評価が下がるうえ、テーピングのやり直しになる。

縫合時は、手を止めずに糸を長めに使い、折り返し回数を多くすることを意識するといい。

縫合痕の少し上から保護テープを張っておき、完全に縫合痕を覆うように最後まで張ること。

［手順］
❶ 針と糸　術野を閉じる
❷ ヒールゼリー　縫合痕に塗る
❸ 保護テープ　閉創部に張る

評価ポイントに関わる要素

- 縫合線の長さが規定以上あり、左右幅が正確
- 縫合の折り返しの回数が規定以上ある
- 閉創部を完全に止血する
- 保護テープの長さ、傷に対する角度が正確
- 保護テープの張り直しがない

異物除去

使用器具   ／ 評価ポイント

体に刺さったガラス片や骨片を回収する術式。ピンセットで異物をつかんで引き抜いたあと、画面右側に表示される回収トレイへ運ぶ。その後、傷痕にヒールゼリーを塗れば処置完了だ。大きな傷痕の場合は縫合が必要になる。

異物除去での評価は、「抜いた角度」、「抜きミス回数」、「異物を落とした回数」の3つで、1回でも「Miss」があると「Bad」になる。角度は、異物が刺さっている傷に対してほぼ垂直（88～92度）で抜けば「Cool」、垂直に近い角度（85～87、93～95度）なら「Good」になり、角度が悪いと「Miss」でやり直しになる。なお、抜いた異物は、回収トレイにポインタの光点が当たる位置まで移動させてから離すこと。異物を術野に落とすと「Miss」になり、異物はもとの場所に刺さってやり直しになるうえ、評価は「Bad」になる。

少しでも角度がずれると「Good」になる。処置方法は簡単だが、抜けきるまで慎重に行なおう。

傷痕は切り傷と同じ処置法で治療。傷痕のなかには裂傷と同じで縫合が必要なタイプもある。

［手順］
❶ ピンセット　異物を引き抜き、トレイへ運ぶ
❷ ヒールゼリー　傷口に塗る

評価ポイントに関わる要素

- 正しい角度で異物を引き抜く
- 引き抜いた異物を落とさずトレイまで運ぶ